

## 令和3年度 第3回 くるめ支え合うプラン推進協議会 議事要旨

## 開催要領

- 1 日 時 令和4年3月23日（水） 9時30分～10時30分
- 2 会 場 WEB会議（久留米市総合福祉会館1階作業室）
- 3 出席者 委員19名  
佐藤(美)委員、松延委員、高尾委員、坂井委員、縄崎委員、  
橋本委員、津野委員、藤野委員、河口委員、村井委員、矢野委員、  
森山委員、高田委員、刈茅委員、濱崎委員、窪田委員、  
佐藤(寿)委員、田端委員、渡邊委員
- 4 欠席者 委員6名  
江頭委員、堤委員、原口委員、菊池委員、永野委員、吉田委員
- 5 傍聴者 なし

## 次第及び議事要旨

- 1 開会  
会 長：本日は、市の再犯防止推進計画とくるめ支え合うプランの進捗について活発な意見交換をお願いしたい。  
支え合うプラン取組推進事業では、市と委託先や地域住民が協力して取り組んでいる。このような取組みを通して、地域福祉を推進していく上で必要な制度などのあり方が見えてくるのではないかと感じている。
- 2 報告事項  
(1) 令和3年度 第2回 協議会 議事要旨  
※資料配布のみ
- 3 協議事項  
(1) 市再犯防止推進計画の策定について  
【主な質疑応答・意見等】  
委 員：広報紙などで周知する予定はあるか。  
事務局：「広報久留米」3月号に掲載した。今後はパブリックコメントなどを実施し、市民に積極的に周知していく。  
委 員：様々な声が計画に反映されている。特に、第2章の「3 被害者等へ

の配慮」は、くるめ支え合うプランの趣旨に沿ったものだと感じる。周囲の理解や協力を得るためには、この項目は非常に大事である。

委員：第1章の「1 計画策定の趣旨」にも「被害者等への配慮」の視点を盛り込んだ方がよりよいのではないか。被害者等を支援している団体等もあるため、それらを踏まえた内容にしていきたい。

事務局：ご意見を踏まえて検討したい。

会長：計画の完成時期は、いつか。

事務局：来年度前半の完成を目指したい。それまでに様々な活動者等にインタビューなどを行い、コラムも掲載する。

会長：「再犯防止に係る主な機関の連絡先」には、どのような機関を掲載する予定か。

事務局：現時点では具体的には決まっていない。福祉に関する相談先も含め、どのようなところが適切か、皆さまにもご意見を伺いながら充実したものにしたい。

委員：第3章「計画の推進体制」に、人権関係の団体の記載がない。くるめ支え合うプランには記載されているので記載してほしい。

事務局：再犯防止推進計画は、くるめ支え合うプランの分冊として作成している。そのため、くるめ支え合うプランに記載している考え方が基本であり、その基盤は人権である。どのように記載するか検討したい。

## (2) くるめ支え合うプランの進捗状況について

### 【主な質疑応答・意見等】

委員：資料3の「策定参画団体(例)」に、女性の会とあるが、久留米市では女性の会がある地域は少ない。女性の声は必要なので、「女性の会や女性団体」と表記してはどうか。

事務局：実際に各校区にある団体名を記載している。今後、同様の団体が参画した場合は表記を検討したい。

会長：女性の会というのは、どのようなメンバーで、どのような活動をしているのか。

事務局：各校区で、女性が中心となって活動している団体である。老人クラブの女性部という位置づけの校区もある。また、以前は「婦人会」と言われていたもので、女性の権利の推進などを目指し、主婦層を中心に長らく活動していた。ご指摘のとおり、組織している校区が少なくなってきた。女性の意見を反映できるよう、様々な団体の参画を促していきたい。

会 長：校区によって状況が異なっている。国が女性の意見が反映される社会づくりを進めていることから、校区の計画策定にも反映されるとよい。また、子育て世帯においても、孤立などが課題になっている。子育て世帯がつながれる仕組みが地域の中にできていくとよい。校区福祉活動計画にも、取り入れていけるとよい。

委 員：校区福祉活動計画の策定状況を教えて欲しい。コロナ禍で校区内の情報共有が難しくなっている。

資料3（別紙）の取組み（新地福委員会や未来会議など）は、どの校区でされたのか教えて欲しい。

事務局：令和2年度策定は上津校区。令和3年度の策定予定校区は、鳥飼校区、南校区、合川校区、西国分校区、金丸校区、善導寺校区、津福校区、田主丸校区、高良内校区。また、京町校区、東国分校区、山本校区、草野校区、荒木校区、大善寺校区、城島校区、浮島校区などが策定に向けて協議している。その他、策定に向けて市社会福祉協議会の校区担当コーディネーターと打合せを行っている校区もある。

事務局：支え合うプラン取組推進事業は、今年度は、基本的にオンラインを活用して開催し、校区単位での開催はしていない。今後、取組み方やノウハウ、気づきなどを様々な方と共有し、支え合いを体感してもらえる場をつくっていききたい。委員の中にも参加した人がいるので、感想などを聞かせて欲しい。

委 員：3回ほど参加した。参加してよかったと思うし、特にシャボン玉のイベントは純粹に楽しかった。良い意味で、誰がスタッフで誰が参加者かわからなかった。たまたま通りかかって参加された方がいたのはよかった。一方で、取組みそのものを知らなかったり、情報が行き届いていなかった。地域のコミュニティに入りづらいという方に、いかに届けていくかということが今後の課題である。

会 長：オンラインならではの良さもある一方で、オンラインの限界もある。実際に顔を合わせながら行動することに価値があると感じている。シャボン玉のイベントについては、校区でも実現可能だと思う。多世代で誰でも参加でき、遊び心のある取組みである。

委 員：策定参画団体の中にNPOなどが記載されていないが、地域で活動している団体にもぜひ参画してもらいたい。

事務局：現在策定中の校区では、資料に記載している団体の参画が多い。NPOや地域で活動している様々な団体が交わって策定していけるとよいと考えている。今後策定する校区については、参画を促していきたい。

会 長：これまで地域で活動してきた歴史のある団体も多いが、NPOなどもたくさんある。同じような目的をもっているながら地域の団体とNPOがあまりつながっていないという現状もある。社会の状況に応じて参画団体が広がるとよい。

#### 4 その他

##### 【主な質疑応答・意見等】

委 員：シャボン玉のイベントは、夢のある企画だと思う。全く知らなかったのは残念に思う。今後広げてほしい。

また、今回の「地域福祉マガジン グッチョ」は、保護司の活動に関する内容で重層的な連携の必要性が記載されている。今後もウェブマガジンや広報久留米を通じて、地域住民に重層的な連携の必要性が伝わればよいと感じる。

委 員：「つながるスイッチ」は、校区の取組みなどがわかりやすく記載されており、他の校区にも紹介できる内容になっていると思う。どこに配布しているのか。

事務局：市社会福祉協議会のホームページやウェブサイト「note」で配信している。今後地域の各種会議等でも案内する予定。また、市まちづくり連絡協議会には既に案内している。

会 長：「つながるスイッチ」はコミセンなどには置いているのか。

事務局：チラシを作成中である。今後お知らせしていきたい。

#### 5 閉会